

【調査設計】

調査方法：インターネットによるアンケート調査

調査地域：全国

調査対象：子ども／親／祖父母世代の比較を行うため、下記割付でサンプル回収を行った。

		小学生			中学生		
		1-2年生	3-4年生	5-6年生	1年生	2年生	3年生
父親	男児	103名	103名	103名	52名	52名	52名
	女児	103名	103名	103名	52名	52名	52名
母親	男児	103名	103名	103名	52名	52名	52名
	女児	103名	103名	103名	52名	52名	52名

	55-64歳	65-74歳
祖父	52名	52名
祖母	52名	52名

総回収数：親世代（1860 サンプル）、祖父母世代（208 サンプル） 計 2068 サンプル

※父親／母親・・・同居している長子の学齢によって割付（30-44 歳）

※祖父母・・・小学生もしくは中学生の孫がいる祖父母の年齢によって割付
（同居有無不問、半年に1回以上会う）

調査時期：2011 年 6 月

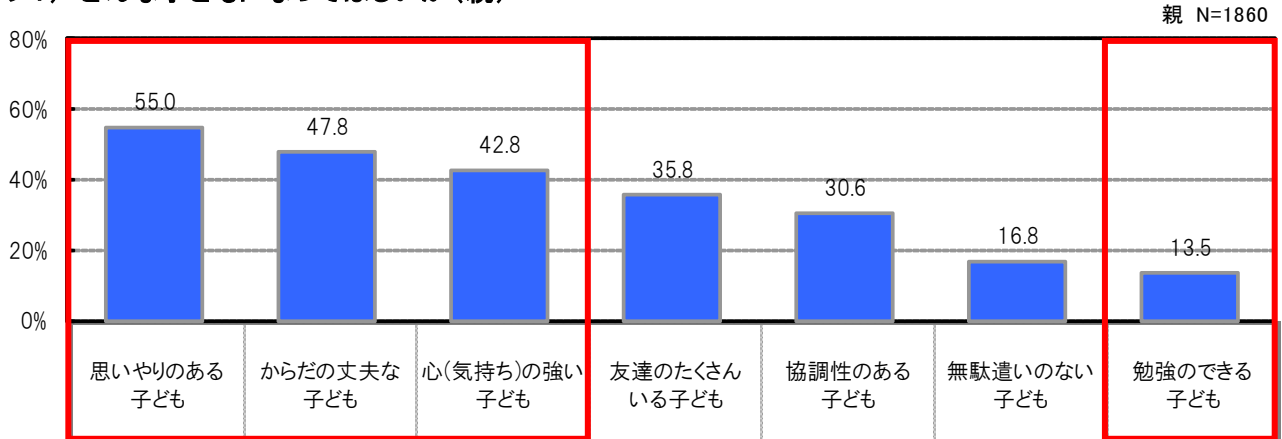
1. 親は「勉強のできる子ども」より「心身の強い(丈夫な)子ども」を望む。

親世代に、自分の子どもに対してどのような子どもになってほしいと思っているのか、それぞれの項目についてどの程度あてはまるかを聞いた。

「非常にあてはまる」と答えた項目のうち、「思いやりのある子ども」(55.0%)が最も多く、次いで「からだの丈夫な子ども」(47.8%)、「心(気持ち)の強い子ども」(42.8%)となり、心身の強い(丈夫な)子どもとなることを望む声が高いことがわかった。からだだけでなく、「心(気持ち)の強さ」が上位に挙がるのが、複雑なストレス社会に不安を抱く現代の親の傾向とも考えられる。

一方で、「勉強のできる子ども」を強く望む親は 13.5%と、全体に比べて低い結果となった。

グラフ1) どんな子どもになってほしいか(親)

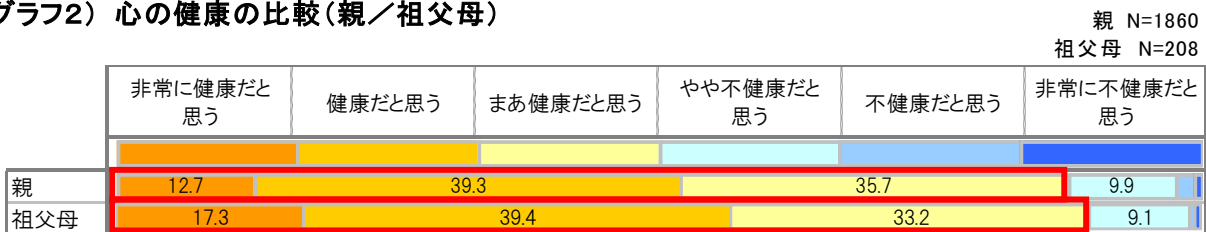


2. 親・祖父母の約 9 割が、「自分の子ども時代より、今の子どもは心身ともに健康」。

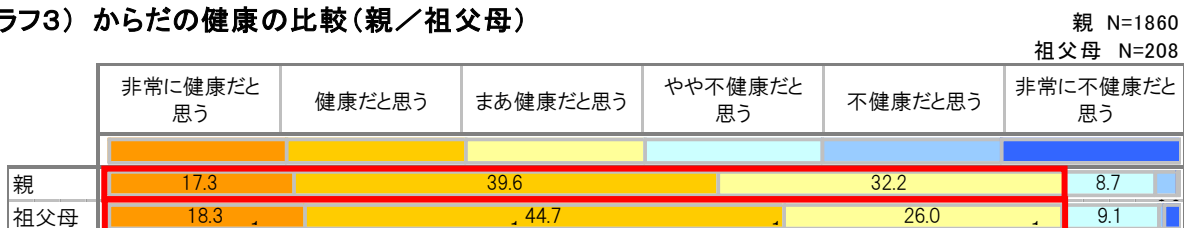
親世代に、親自身が今の自分の子どもくらいの年齢のときと比較して、自分の子どもが心身ともに健康と思うかどうかを聞いた。同様に、祖父母世代には、祖父母自身が自分の孫くらいの年齢のときと比較し、自分の孫が健康と思うかどうか調査した。

心の健康、からだの健康それぞれに「非常に健康だと思う」「健康だと思う」「まあ健康だと思う」を合わせると、約 9 割が「自分の子ども時代よりも、今の子ども・孫が心身ともに健康」と回答。近年、子どもの体力低下が問題視されているにもかかわらず、子どもの方が健康と考える割合が高かった。特に、祖父母世代は、自分が子どものときと比べて、孫世代では衛生環境の改善、エコ志向や食の安全意識の高まりなど、社会・生活環境が変化していると考えているためか、親世代より強い傾向が出た。

グラフ2) 心の健康の比較(親/祖父母)



グラフ3) からだの健康の比較(親/祖父母)



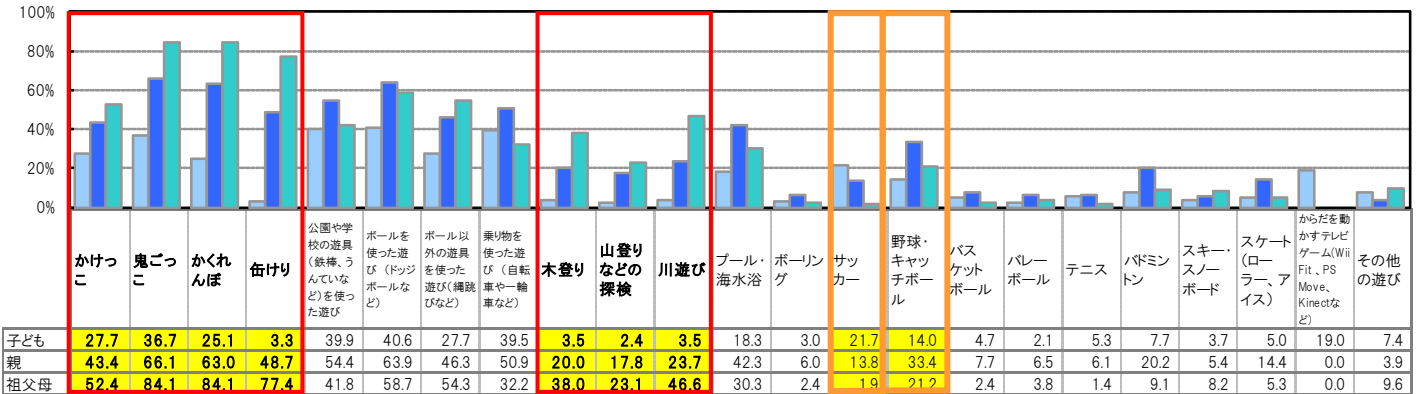
3. 現代っ子は外遊びをしない！？「かけっこ」「鬼ごっこ」「かくれんぼ」など、昔ながらの遊びは減少。

からだを動かす遊びについて、子ども、親、祖父母の各世代の比較をすると、「かけっこ」「鬼ごっこ」「かくれんぼ」などの昔ながらの遊びは、祖父母、親、子の順に減少傾向。また、「木登り」「山登りなどの探検」「川遊び」など、自然を取り入れた遊びも同様に減少しており、子どもたちの身の回りの自然環境が変化していると考えられる。

一方、「サッカー」は祖父母世代ではわずか 1.9%だったのに対し、親世代で 13.8%、子ども世代で 21.7%と世代が若いほど、遊びに取り入れられている。それに対し、「野球・キャッチボール」は親世代では 33.4%だが、子ども世代では 14.0%と減少傾向が見られる。

グラフ4) からだを動かす遊び(子ども／親／祖父母)

子ども N=1860
親 N=1860
祖父母 N=208



4. 今年の夏休みにやりたい遊び TOP5、子ども世代では「レジャー施設に行く」がランクイン。

子どもが今年の夏にやりたい遊びトップ 5 は、1 位 花火、2 位 プール、3 位 旅行(帰省なども含む)、4 位 お祭り、5 位 レジャー施設に行く(遊園地やテーマパークを含む)だった。親世代の子どもの頃の、夏休みにしていた遊びトップ 5 は、1 位 花火、2 位 プール、3 位 お祭り、4 位 海水浴、5 位 旅行だった。親子ともに、花火、プール、旅行、お祭りという夏休みの定番ともいえる遊びは共通していた。また、親世代では 9 位だった「レジャー施設に行く」が、子ども世代ではトップ 5 にランクイン。親世代が子どもの頃よりも、レジャー施設が多様化し、施設を利用する機会も増えたためと考えられる。

子ども世代に対する自由回答で特徴的なものを挙げると、男児は、「キッズニア」(小 2 男子)、「ベイブレード」(小 2 男子)、「ゲーム(Wii、DS)」(中 2 男子)など、現代の子どもらしい回答が見られた。一方、女児は「デコる」(小 2 女子)、「フリマ出店」(小 4 女子)、「ネット」(中 3 女子)など男女で遊び方は異なり、また、それぞれの遊びが多様化している傾向にある。

グラフ5) 夏休みの遊び(子ども／親)

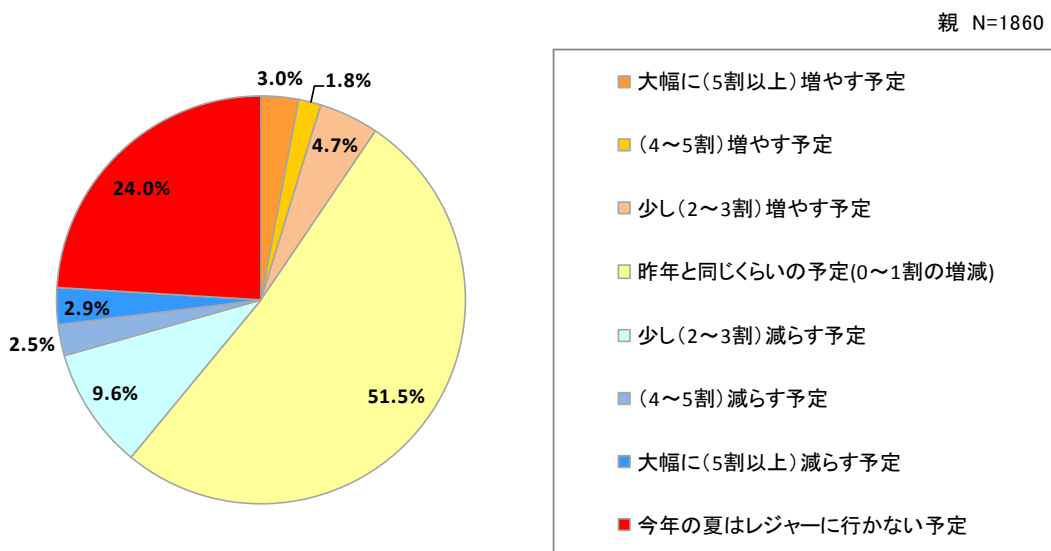
子ども N=1279
親 N=1860

順位	子ども世代(今年の夏休みにやりたい遊び)	親世代(子どもの頃の夏休みの遊び)
1位	花火	花火
2位	プール	プール
3位	旅行(帰省なども含む)	お祭り
4位	お祭り	海水浴
5位	レジャー施設(遊園地やテーマパーク含む)に行く	旅行(帰省なども含む)
6位	海水浴	虫探し
7位	キャンプ	川遊び
8位	川遊び	キャンプ
9位	つり	レジャー施設(遊園地やテーマパーク含む)に行く
10位	虫探し	つり

**5. 今年の夏休みのレジャー予算、一人当たり平均20,270円で「昨年とほぼ同じ」が半数。
「今年はレジャーに行かない」は24%。**

親世代に、今年の夏休みのレジャーにかかる家族一人当たりの予算金額を聞いたところ、一人当たり20,270円という結果に。昨年と比較してどの程度にする予定か聞いたところ、「昨年とほぼ同じ」が51.5%と半数以上となった。「昨年より増やす予定」と答えた人は、レジャー予算の2～5割増が6.5%、5割以上の人を含めても10%に満たなかった。また、「今年はレジャーに行かない」人が24.0%で約4人に1人の割合で、夏休みのレジャーに対する意識は消極的な傾向が見られた。

グラフ6) 夏休みのレジャー予算(親)

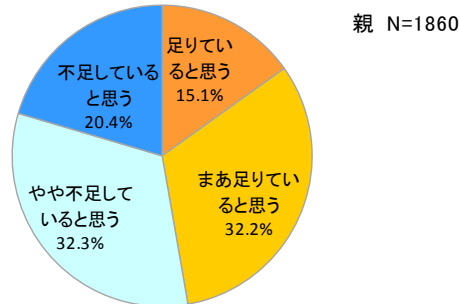


【ご参考①】子どものからだづくり・健康に関する調査データ

■からだを動かす時間、親の半数以上(52.7%)は子どもが運動不足だと感じている。

親から見て、子どもが遊びや運動などでからだを動かす時間が足りているかどうか聞いたところ、「やや不足していると思う」「不足していると思う」を含めて、親全体で半数以上(52.7%)が「不足している」と感じていることが分かった。

グラフ7) からだを動かす時間

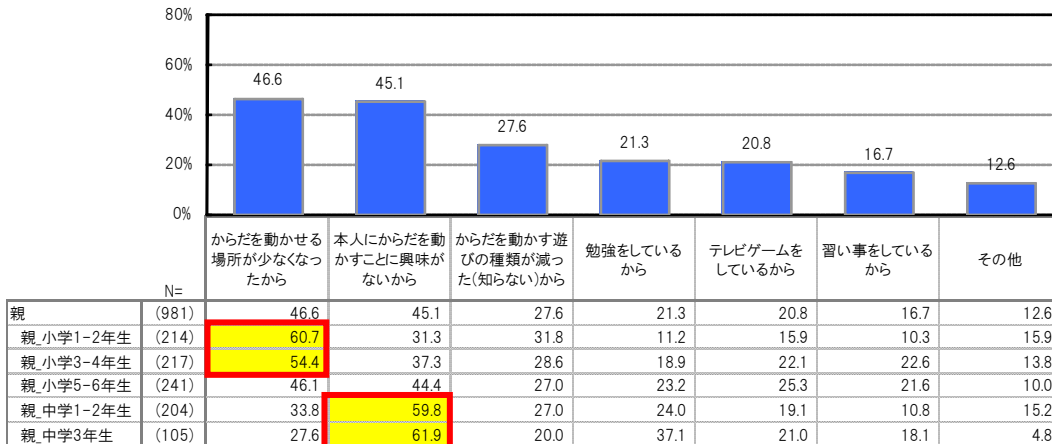


■子どもの運動不足の原因は、「からだを動かせる場所が少なくなったから」が1位。

上記の設問で、子どもが遊びや運動などでからだを動かしている時間が不足していると答えた親に、不足してしまう理由としてあてはまると思うものを聞いたところ、「からだを動かせる場所が少なくなったから」(46.6%)が最も多く、次いで「本人にからだを動かすことに興味がないから」(45.1%)という結果に。

小学生・中学生別に見ると、小学生ではからだを動かせる“場所”の減少が、中学生では“本人の興味のなさ”が原因として上位にあがった。

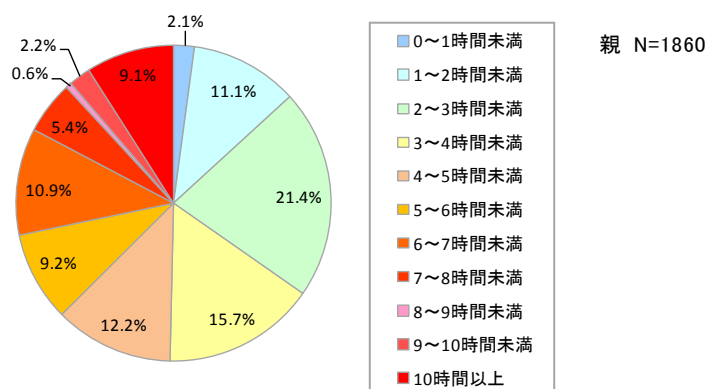
グラフ8) からだを動かす時間(不足理由)



■親の20%が、子どもには「一週間のうち、あと2~3時間からだを動かしてほしい」と考えている。

子どもには一週間のうち、あとどの程度からだを動かしてほしいと思うか、親に聞いたところ、親の20%以上が、「1週間のうち、子どもにはあと2~3時間体を動かしてほしい」と回答。「1週間のうち、7時間以上」、つまり一日あたり1時間以上からだを動かしてほしいと答えた親は、17.3%となった。

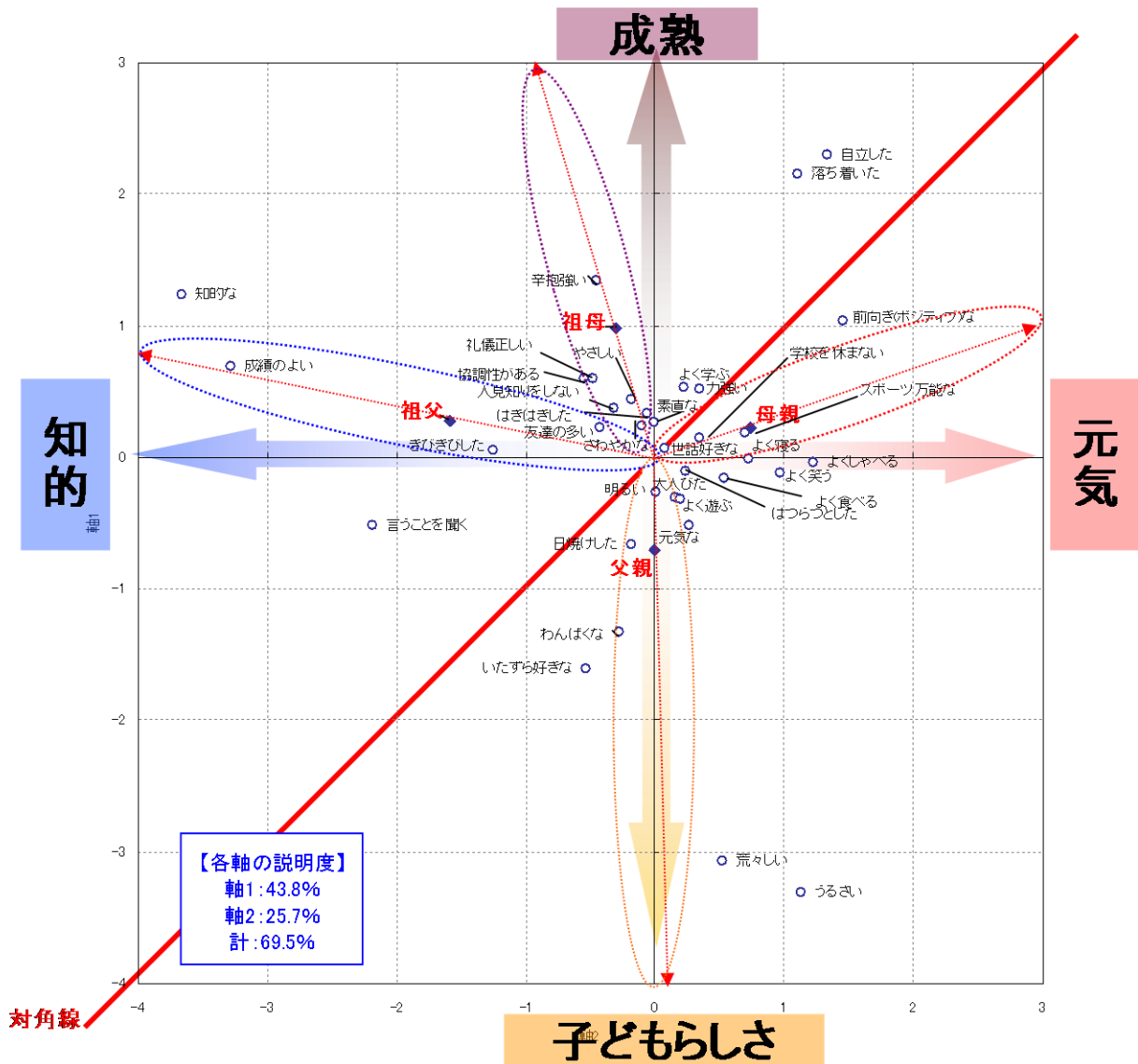
グラフ9) あとどの程度からだを動かしてほしいか (※運動系の部活動やスポーツチームで活動する時間は除く)



■健康な子どものイメージの相関分析

親、祖父母世代それぞれに、「健康な子どものイメージ」として当てはまるものを答えてもらい、相関分析※をしたところ、対角線で区切ると、全体として親世代は「元気な子ども」、祖父母は「大人な(自立している)子ども」という結果になった。親世代は子どもと接する時間が多く、常に子どもの様子を見ている立場なので、元気な子どもをイメージする人も多いが、祖父母世代は子ども(孫)と接する時間が親世代より少なく、より早い成長を願うため、成熟した子どもをイメージすることが多いと考えられる。

※相関分析とは・・・クロス表の似た傾向を持つ表頭項目同士・表側項目同士が近くに来るようにし、また、原点から見て同じ方向性を持つように、マッピングする手法。



<マップの見方>

マップの中心には最も平均的な項目が布置される。近くに配置されている項目同士は似た特性を持っていると解釈できる。各層とイメージワードの近さは原点からの方向で考える。逆に、原点から見て同じ方向にあれば一見距離が遠く見えても関連があると解釈できる。縦横軸は、出力されたマップを解釈しやすくするために、分析者が後からつけるものとなる。

- ・祖父・・・「きびきびした」、「成績のよい」といった知的イメージが特徴的。
- ・祖母・・・「やさしい」、「辛抱強い」といった成熟イメージが特徴的。
- ・父親・・・「元気な」、「わんぱくな」といった子どもらしいイメージが特徴的。
- ・母親・・・「スポーツ万能な」、「よく寝る」といった元気なイメージが特徴的。

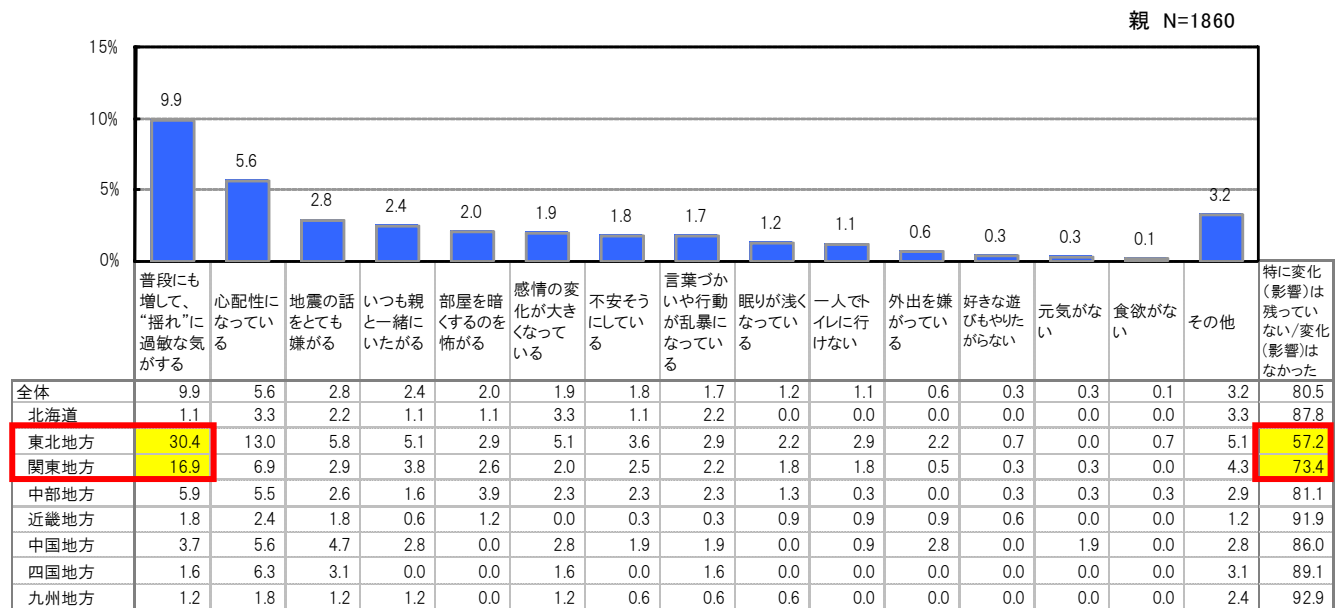
【ご参考②】震災に関する調査データ

■震災後、東北地方・関東地方で他地域より子どもに“揺れ”に対して過敏な傾向。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から約3カ月経過し、子どもの様子を見て現時点で震災前と比較して何か変化(影響)があるかどうかを聞いた。

地域別に見ると、東北地方では「普段にも増して、“揺れ”に過敏な気がする」が30.4%、関東地方では16.9%と、他地域に比べて高い数値となった。「特に変化(影響)は残っていない、変化(影響)はなかった」という設問でも、全体では8割とほぼ影響はみられなかったが、東北地方では、57.2%、関東地方では73.4%と、他地域よりも震災の影響があると考えられる。

グラフ10) 震災が子どもに与えた影響(親)



【おわりに】

今回の2011年「子どものからだづくり・健康」に関する調査では、現代の子ども状況は、親世代・祖父母世代が子どもの頃に比べて外遊びが減るなど、周辺環境の変化を大きく受けて移り変わっていることがわかりました。今年の夏休みの遊びについては、レジャーに行かない人が多く消極的な傾向にあり、やはり震災による影響が及んでいると見られます。その中でも、親世代が子どもの健康や遊び方について望むことに変化はなく、親世代の大半が「子どもには心身ともに健康であってほしい」との想いを抱いていることがわかりました。

かんぽ生命は、今後も皆様の豊かで充実した生活に欠かせない「健康づくり」を応援してまいります。